



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

遺伝診療部紹介

部長 渡邊 尚文

ゲノム医学の進歩により遺伝医療を実践する専門外来の必要性が高まってきました。そのような状況の中、遺伝診療部は2016年5月より中央診療部の一部門として開設されました。

現在、臨床遺伝専門医を持つ常勤医4名と非常勤医2名、認定遺伝カウンセラーが常勤と非常勤各1名、遺伝性腫瘍コーディネーターが1名、主に出生前診断を担当している非専門医の産婦人科医3名で診療をしています。2018年度は166名の新患の遺伝カウンセリングを実施しました。2019年度は上半期で100名近くに達しており、増加傾向にあります。対象疾患は、出生前診断を中心に染色体異常、先天異常、腫瘍、神経・筋、難聴、循環器、骨系統、代謝などあらゆる遺伝性疾患に対応しますが、最近では腫瘍が多くなっています。その理由として、乳がんや卵巣がんの一部の方に対して治療薬を決める検査に、遺伝性乳がん卵巣がん症候群の原因遺伝子

(BRCA1/2) が保険診療で行えるようになったことが挙げられます。今後は保険医療で行われるがんゲノムパネル検査において、がん組織で見つかった遺伝子変異の中に、遺伝に関連する変異(二次的所見といわれ、多くが腫瘍関連)が偶然見つかることがあり、遺伝カウンセリングが必須となります。

目まぐるしく進歩する遺伝子診断に対応するために、地域の医療機関や院内の各診療科の先生方との連携を大切にしながら、患者様に寄り添う遺伝医療を実践して参りたいと思っております。

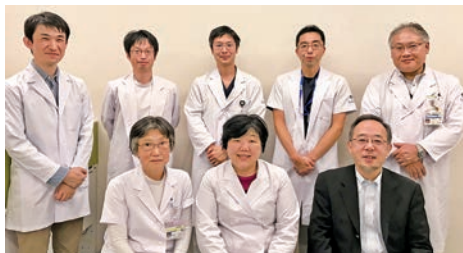


がんゲノム医療診療部紹介

部長 佐治 重衡

がんゲノム医療という言葉が、2018年頃から新聞等でしばしば見聞きすることが多くなってきました。これは、厚生労働省ががんゲノム医療に力を入れる時代になったためです。福島県立医科大学附属病院は、2018年4月に東北大学病院の関連病院として国から「がんゲノム医療連携病院」の認定を受け、2019年1月に「がんゲノム医療診療部」を設立し、検査体制を構築してきました。

がんの原因は、遺伝子の変化だということが分かっています。現在も保険診療の範囲で、がんの遺伝子を調べる場合もあります。がんゲノム医療の目的は、がん細胞に起きた遺伝子の変化を調べて、個々人のがんの特徴に適した治療法を検討することです。これまで、一つの遺伝子を調べて、それと結びつく一つの薬剤を検討することはありましたが、2019年6月に保



険で行えるようになったがんゲノム医療の検査は、一回の検査で114遺伝子又は324遺伝子を一括して調べる検査方法です。この2つの検査では、検査を受けられる患者さんの条件が決まっており、当院では分かりやすく言いますと主に①固形癌の患者さん、②標準的な抗がん剤治療などを行ってきた患者さんや、標準的な治療法がない患者さん、③検査後も抗がん剤治療などを受けられる十分な体力があり、また治療費など経済的負担の理解がある患者さん、④検査に適した病理等の組織がある患者さんです。

福島県民の健康のため、体制を充実したものにしよう取り組みでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第48号のなかみ

- 1 ページ…○遺伝診療部紹介 ○がんゲノム医療診療部紹介
- 2 ページ…○永年勤続表彰
 - 永年勤続表彰受賞者 ●永年勤続表彰をうけて
- 3 ページ…○医大校の学習発表会
 - 内視鏡診療部が、きぼう棟4階東に移設しました
- 4 ページ…○患者サービス向上委員会「あいさつ運動」
 - 患者サービス向上委員会主催「講演会」

マチのほっとステーション
LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店 (エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店 (7号館内)

病衣・タオル・紙おむつ・日用品・付添寝具

手ぶらで入院・手ぶらで退院
入院セットレンタル

お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口
024-548-8777



* 院内1階、入退院受付横 9番窓口
月～土曜日 9:00～17:00(日祝祭日休日)
土曜日はきぼう棟1階ローソン南側にて営業します。



永年勤続表彰

令和元年度永年勤続表彰受賞者

神経解剖・発生学講座	主任医療技師	島田 孝子	みらい周産	主任看護技師	阿部美智子
法医学講座	主任医療技師	須藤美和子	みらい4西	主任看護技師	上澤 紀子
生体物質研究部門	主任医療技師	八巻 淳子	みらい4西	副看護師長	保坂 ルミ
放射線部	専門放射線技師	清野 真也	みらい救命HCU	主任看護技師	梶原 由美
放射線部	放射線技師長	阿部 郁明	薬剤部	副部長(総務担当)	鳥羽 衛
看護事務	看護師長	山本 匠	(会)看護3南	看護師長	星 ひかり
看護外来	主任看護技師	板橋 正子	(会)看護緩和	主任看護技師	小川美恵子
看護2北	主任看護技師	丹治恵美子	(会)看護緩和	主任看護技師	佐藤 英子
看護5西	主任看護技師	平山いづみ	(会)看護手術	副看護師長	寺木美枝子
看護5西	主任看護技師	岩井さとみ	(会)看護人透	主任看護技師	安西 悦子
看護7東	看護師長	菅野 京子	(会)薬剤部	薬剤部副部長(業務担当)	加藤 貴明
看護8東	看護師長	相澤 昌子	システム神経科学講座	准教授	浄土 英一
看護10東	主任看護技師	木村 恵	自然科学講座	准教授	吉田 宏
看護手術	副看護師長	八代 妙子	麻酔科学講座	教授	村川 雅洋
みらい周産	副看護師長	岩崎 美樹			

永年勤続表彰をうけて

放射線部 技師長 阿部 郁明



令和元年11月25日、永年勤続表彰式が行われ、当日は30年間勤務した21名の職員が表彰を受けました。私たちが採用された年は平成元年、私は放射線技師として採用され平保健所に配属されました。その後、県立大野病院を経て医大に異動となりこちらで22年が経過しました。これまで

無事勤務できたのは諸先輩方をはじめ職場の多くの皆様、そして家族の支えがあったことと心より感謝しております。

振り返ってみますと私たちを取り巻く環境は長い年月の中で変化をしてきました。附属病院は特定機能病院となり、被ばく医療施設の新設、そして電子カルテの導入、大学の法人化、ドクターヘリの運航も開始されました。そして忘れる事の出来ない大きな出来事、東日本大震災であります。津波による甚大な被害は東日本の広範囲に及びました。福島県はそれに加えて原子力発電所の事故による被害がまだ各地に残っています。廃炉に向けた作業が今後何十

年も続くような状況です。震災当時は外来診療を停止して職員が一丸となって来院される避難者へ対応をしました。放射線部では避難者の放射線サーベイや放射線による汚染傷病者の受け入れにも携わってきました。震災以降、ふくしま国際医療科学センターが完成し、みらい棟と言う新しい病棟が出来て、県民の疾病の早期診断、治療を担っていくこととなりました。

今後も福島医大の職員として大学の発展に、そして県民の皆様の医療の向上に少しでも貢献できるよう努めてまいりたいと思います。



11月9日(土)に医大校で学習発表会を行いました。小学部は、「みんなにとどけ! ありがとう!!」をテーマにして物語の朗読やピアノの演奏、合唱の発表を行いました。発表した児童は、緊張しながらも練習の成果を十分に発揮し最後までやり遂げました。中学部は、テーマをもって調べ学習を行い、まとめたことをスライドで発表しました。また、学校生活の様子や生徒一人一人が考えた「〇〇な漢字」についてのスライド上映では、生徒たちが普段直接伝えることのできない思いに涙する保護者もいました。



今回は、発表場所を初めて医大校内としましたが、多くの方々にご覧いただき、発表が終わる度に観客から大きな拍手をいただきました。

後半は、バザーやお楽しみゲームを行いました。在籍生だけでなく病棟からもたくさんのお子さんや保護者の方、以前在籍していた児童生徒たちも来校し、盛大に開催することができました。

病院関係者の方々やボランティアの学生さんなど、多数の方にご協力をいただきましたことに感謝いたします。



内視鏡診療部が、きぼう棟4階東に移設しました 内視鏡診療部 部長 引地 拓人

内視鏡診療部は、福島医大病院の中央診療施設として、主に消化管領域（胃がんや食道がん、大腸がん、ピロリ菌の胃炎、逆流性食道炎など）と胆膵領域（膵がん、胆道がん、胆石など）の疾患に対する内視鏡診断や治療を行っています。内視鏡診療部や消化器内科の医師を中心に、消化管外科や血液内科などの医師も、担当日を決めて、それぞれの診療科の患者様の内視鏡診療を行っています。

このたび、従来のきぼう棟1階から4階東に移設をし、11月5日から新たな場所で診療を再開しました。これまで4室であった内視鏡診療室が7室に増室され、以前よりも多数の患者様の内視鏡診療を同時に行うことが可能になりました。



また、待合室、前処置室、リハビリ室、面談室も広くなり、患者様にとってゆとりがある空間をご提供できるようになりました。メディカルスタッフも、新たに医療秘書、臨床工学技士、看護助手が勤務するようになったことで、診療の効率化もはかれるようになりました。

内視鏡診療部での診療件数は年々増加し、最近では年間7000件台の件数を施行しておりますが、増室の効果で、さらに診療件数の増加をはかりたいと思います。今まで以上に安全で安心できる質の高い内視鏡診断や治療を行えるよう、スタッフ一同で努力をして参りますので、宜しくお願いいたします。

皆様のご受診をお待ちしております。





患者サービス向上委員会「あいさつ運動」

看護部 師長 佐藤みつこ

医大病院の委員会である「患者サービス向上委員会」では、患者さんへのサービス向上に向けて活動を行っております。その活動のひとつに『あいさつ運動』があります。今年度は、7月～11月までの期間、朝の時間帯に患者さんや職員が行き来する場所であいさつを行いました。

『あいさつ運動』の目的は、「①患者さんに安心を与え信頼が得られる、②患者さんだけでなく、医療者・教職員・学生など職員同士もお互いに気持ち良い挨拶ができる」ことです。

患者さんやその家族の方に、職員から元気なあいさつをすることで、少しでも安心して当院の医療を受けていただけるように『あいさつ運動』を行っています。また職員同士、朝の挨拶を交わすことで他部門や他職種とのコミュニケーションにつながり、より良いチーム医療

になることを期待し行っています。

『あいさつ運動』を通して、自然に患者さんへの挨拶や職員同士が挨拶することで、温かみのある医療を目指していきたいと思います。



患者サービス向上委員会主催「講演会」

令和元年11月21日、産業能率大学総合研究所 平井美知子先生をお迎えして『医療現場における接遇の重要性について』をテーマに講演会を開催しました。

平井先生には、平成30年度に当院で実施した患者満足度調査の結果を踏まえ、“接遇の大切さ”、“言葉の遣い方で接遇力を上げる”についてご講演いただきました。

当日は、医師・看護師・技師・事務職員等273名が参加しました。

講演後に行ったアンケートでは、「日頃の振る舞いを見直すきっかけになった」「接遇について再認識できた」「接遇＝言葉遣い・身だしなみ・動作すべてだということがわかった」等の感想がありました。

患者サービス向上委員会では、今後も職員の接遇力の向上や、患者さんやご家族との信頼関係の構築に繋がるような活動を展開してまいります。



スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやバスター、サンドイッチをお楽しみいただけます。



すべてを地域のために

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間：平日午前9時から午後5時)